

日本キリスト教会 大阪北教会

2017年9月3日 聖日礼拝説教 牧師 森田幸男

聖書 エフェソの信徒への手紙4章17～24節

04:17 そこで、わたしは主によって強く勧めます。もはや、異邦人と同じように歩んではなりません。彼らは愚かな考えに従って歩み、04:18 知性は暗くなり、彼らの中にある無知とその心のかたくなさのために、神の命から遠く離れています。04:19 そして、無感覚になって放縱な生活をし、あらゆるふしだらな行いにふけてとどまる場所を知りません。04:20 しかし、あなたがたは、キリストをこのように学んだのではありません。04:21 キリストについて聞き、キリストに結ばれて教えられ、真理がイエスの内にあるとおりに学んだはずです。04:22 だから、以前のような生き方をして情欲に迷わされ、滅びに向かっている古い人を脱ぎ捨て、04:23 心の底から新たにされて、04:24 神にかたどって造られた新しい人を身に着け、真理に基づいた正しく清い生活を送るようにしなければなりません。

説教『滅びに至る道から命に至る道へ』

◆わたしたちは、わたしたち各自が今・此処あるのは、計り知れない先祖の連年の果てであることを知っております。どこまでさかのぼり得るのか知りません。そして、この私自身の存在と人生が、子孫に影響を与え、またわたしが出会った人々の人生に何らかの影響を与えることも想像できます。そして、時には気付かないで、また気付きつつ、わたしたちの一挙手一投足が、その人の人生に決定的な影響を与えることを、そして、悔いを残すようなことになる事も、自分自身の人生経験から知っております。できることならその前に戻りたいとさえ思うような、痛恨極まりない過去があるのです。そのように、わたしたちの日々の生活が近くの人々、そして遠くの人々に大きな影響を与えるのです。

◆話は飛躍いたしますが、神の独り子イエス・キリストを信じるクリスチャン・キリスト者は、いずれにせよ、自分のこの存在が神様の御心によることを、感謝をもって認めるのであります。パウロは17節～18節でこのように言います。「17 そこで、わたしは主によって強く勧めます。もはや、異邦人と同じように歩んではなりません。彼らは愚かな考えに従って歩み、18 知性は暗くなり、彼らの中にある無知とその心のかたくなさのために、神の命から遠く離れています」と。ここで「異邦人」という表現は、ユダヤ人以外の人を指すよりも、「神の命から遠く離れている人」を指しています。つまり、私達一人一人が、如何に掛け替えなく、尊い者として造られ、計り難い御愛をもって顧みられている

かを、自覚できないでいる全ての人を指しています。ですから 19 節で、「そして、無感覚になって放縦な生活をし、あらゆるふしだらな行いにふけてとどまる場所を知らません」とパウロが言っている人々は皆、真の神を知らない『異邦人』なのです。生粋のユダヤ人パウロも『異邦人』なのです。

「放縦な生活」とか「ふしだらな行い」という言葉から、性的な乱れの方に連想が行きますが、その前に「愚かな考えに従って歩み」、「無感覚になって」しまっているとあります。真実な信仰的認識によらないで、何事か「愚かな考え」に捕らわれて、正常な判断ができなくなってしまう全ての状態を指しているのです。

◆この 20 節～21 節以下には、いわゆる「異邦人」であるエペソの人々の、入信の経過が記されています。①キリストについて聞き、②キリストに結ばれて教えられ、③真理がイエスの内にあるとおりに学んだ。これらの 3 段階のプロセスが、すべての「異邦人」の入信の基本的パターンと言ってよいと思います。

◆22 節の「滅びに向かっている古い人」という表現には、永遠的な意味とこの世的な意味の両義があります。キリストによらないでは、如何なる意味の救いもありません。キリストを知らずして永遠の救いも、永遠の命もありません。そのプロセスをエペソの人々は学び、一度は信仰の道に入ったはずでした。しかし、「以前のような生き方をして情欲に迷わされ、滅びに向かっている古い人」に舞い戻ってしまうことが、実際にはしばしばあるのです。そのような場合、自らが滅びに向かうだけでなく、その人に関わる人々をも、巻き添えにしてしまいます。

◆そこでパウロは、22 節から 24 節で、このように勧めます。「04:22 以前のような生き方をして情欲に迷わされ、滅びに向かっている古い人を脱ぎ捨て、04:23 心の底から新たにされて、04:24 神にかたどって造られた新しい人を身に着け、真理に基づいた正しく清い生活を送るようにしなければなりません。」これらの勧めは、古い昔のエフェソの人々だけの問題ではなくて、今日・此処に生きているわたしたち自身の問題でもあります。「04:22 だから、以前のような生き方をして情欲に迷わされ、滅びに向かっている古い人を脱ぎ捨て、04:23 心の底から新たにされて、04:24 神にかたどって造られた新しい人を身に着け、真理に基づいた正しく清い生活を送るようにしなければなりません。」

◆23 節～24 節の「23 心の底から新たにされて、24 神にかたどって造られた新しい人を身に着け」とは、主イエス・キリストと一体化させられることです。そして、「真理に基づいた正しく清い生活を送るようにしなければなりません。」これは何か、信仰における道德の回復という程度のことを言っ

ているではありません。それこそ、聖書268番が歌っている通りです。

“悲しみ尽きざる③浮世にありても 日々主と歩めば 御国の心地す

ハレルヤ！ 罪 咎 消されしわが身は いづくにありても 御国の心地す”

“山にも谷にも 小屋にも宮にも 日々主と住まえば 御国の心地す

ハレルヤ！ 罪 咎 消されしわが身は いづくにありても 御国の心地す”

日々主と歩む。日々主と住まう。このような主イエス様と共なる幸いな日々の歩みこそが、キリスト教的信仰生活なのです。

◆それこそ、教会に古い方は、耳にタコができる程に繰り返し聞いて来られたことを、もう一度申し上げます。つまり、『聖書とは何か』、『聖書は何を教えているのか』。それを煎じ詰めた言葉があります。1934年5月に発表されたいわゆる『バルメン宣言』の第一条です。バルメン宣言は6条からなる短い信仰告白です。この信仰告白をもって、暴君ヒットラーに対抗したのです。

『聖書においてわれわれに証しされているイエス・キリストは、われわれが聞くべき、またわれわれが生と死において信頼し服従すべき神の唯一の御言葉である。』

教会がその宣教の源として、神のこの唯一の御言葉のほかにも、またそれと並んで、さらに他の出来事や力、現象や真理を、神の啓示として承認しうるとか、承認しなければならないとかいう誤った教えを、われわれは退ける。』

◆聖書においてわたしたちに証しされているイエスこそは、わたしたちが常に聞くべき、またわたしたちが生と死において信頼し、服従すべき、神様の唯一の御言葉なのです。思いを新たにして、この信仰のただ一つの道を共に歩んでまいりましょう。

◆お祈りいたします。

主イエス・キリストの父なる神様。

わたしたちは、ただあなたの御憐れみにより、導かれ、尊い命の道に導き入れていただきました。

にもかかわらず、今、御前にこれまでの歩みを振り返る時、誠に愚かしい歩みであったことを覚え、心から懺悔いたします。どうか、今一度、あなたと共に歩み、あなたと共に住まう日々へと立ち戻らせてください。そして、二度と再びあなたから離れ、滅びの道に行く事のないように捕らえ導いて下さい。この祈り、主イエス・キリストの御名を通し御前にお捧げいたします。アーメン。

